

「できない」を「できる」に変える工夫

直方第三中学校 3 年 有馬 百華

みなさんは「障害者野球」を知っていますか。「障害者野球」と聞くと、車いすに乗っている姿や手足に障害をもつ人がプレーしている姿を思い浮かべるかもしれませんが。しかし「車いすでボールを追いかけるのか」「一塁までどうやって走るのか」私には疑問でした。そんな私に色々と教えてくれたのは父でした。

私の父は、「北九州フューチャーズ」という障害者野球チームのトレーナーをしています。父が携わっている「障害者野球」の正式名称は「身体障害者野球」といい、これは、体に障害をもつ方の野球です。その他に「知的障害者野球」「聴覚障害者野球」など、障害別の野球があります。身体障害者野球の特徴は、「ルールに障害が合わないのであれば障害にルールを合わせよう」というものです。例えば、走ることが難しい選手がバッターの場合、その選手の代わりに走る打者代走が付きまします。また、手足に障害のある選手がキャッチャーの場合、送球が難しいため、盗塁なしとするなど、それぞれの個性を尊重した独自のルールが作られています。

父が以前、ある選手に「なぜ野球をしているのか」と尋ねたとき、返ってきた言葉に私は、はっとさせられました。それは「どんな体であっても野球が好きだから。」

「野球は社会を生きていくための、障害を乗り越えていくための練習だ。」という言葉です。

私はこの話を聞き、「できないからあきらめる」のではなく、「どうすればできるのか」を探っていくことが、障害者野球だけでなく、私たちの普段の生活でも大切なことだと感じました。「できない」と決めつける前に、どうすればできるのかを考える。その積み重ねが、誰もが過ごしやすい社会につながると、私は思います。